

## 英語の語形成における否定接辞に関する意味論ノート – *unlicensed* と *non-resident* を巡って –

高橋 玄一郎

キーワード：語形成，否定接辞，“*a-*，*dis-*，*in-*，*non-*，*un-*”，語彙の歴史性，英語形容詞

### 要旨

本稿は、大学教養課程の英語クラスでの質問を手掛かりに、英語形容詞の語構成に係る否定とそれに類する意味を担う接頭辞 *un-*，*in-* (*il-*，*im-*，*ir-*) のふるまいについて、語彙の歴史性を考慮しながら考察し、日常生活に係る語彙と学術語彙を念頭に、若干の整理を試みるものである。クラスでの質問とは、次のようなものであった。英語形容詞 *legal* と *regular* は、語頭の音価との関係により、それらの反意語は、*illegal* と *irregular* となる。しかしながら、それらと同様の見方を *licensed* と *resident* に当てはめて、\**illicensed* と \**irresident* となるかと思いきや、そうはならない。実態は、文脈、場面、状況にもよるが、*licensed* と *resident* の反義語は、一般的に、*unlicensed* と *non-resident* という形が、安定した表現である。一体、接辞の運用規則はどのようになっているのか、という趣旨の問いである。

これについて、絶対的な運用の規則は立てられないものの、*il-*，*ir-*、(加えて *im-*) という否定の意味に係る接辞は、否定接辞 *in-* と当該形容詞の語頭の音価との同化作用によって生じた異形態 (*allomorphs*) であるという点を踏まえ、*licensed* は、その歴史的経緯の中で、*in-* との結びつきよりも、*un-* との結びつきを求めたとといえる。接辞や語の基体の歴史的起源をみると、*in-* (*il-*，*im-*，*ir-*) はラテン語由来であり、*un-* は、ゲルマン系の英語由来の接辞である。一方、*license* は動詞にしる、名詞にしる、フランス語に起因する。であれば、*in-* と *licensed* の結びつきは、妨げるものがないように思われるが、実際はそうではなかった。出所に係る歴史的由来による結合性よりも、*un-* が、とりわけ過去分詞形容詞と結びつく傾向の強さと、*un-* の有する高い造語力が *in-* の歴史的由来性に優った、と解釈できると思われる。

他方、*resident* に係る否定の語彙については、歴史的には *non-resident* の出現 (16c) のあと、一時期、<sup>†</sup>*unresident* が生まれたが (16c; 初出例1574年)、<sup>†</sup>*unresident* は、17世紀以降、廃語となり、*non-resident* に集約した。意味の面からみると、ある(特定の)場所に人がいるか、いないか、を問題とするため、通常、その間の意味、すなわち、いる、と、いない、の間については注意が向けられることはほとんどない。このことから *resident* の否定の接辞として、意味の中間段階のない、二項対立的な意味構造に適する *non-* が求められることは頷ける。なお、関連する考察の段階で、否定接辞 *un-*，*in-*，*non-* の他に、ラテン・フランス系の接辞 *dis-* とギリシャ語由来の *a-* の振る舞いにも言及した。

0. はじめに

Unhappy <不幸な>, unbelievable <信じられない>などの英語語彙にみられる un- は否定接辞といわれ, happy <幸福な, 嬉しい>や believable <信じられる>という元の語彙(語基)の意味と対立する語彙を形成する機能があるとされる。この場合, 元の意味が分かっているならば, その反意を, happy や believable の語頭に接辞の un- をつけることで表せるという意味で汎用性があるように見える。この点を英語の語彙の学習や教育に活かすことは昔から行われている。しかしながら, そのような語彙の形成, たとえば, 否定やそれに類する接辞のふるまいに係る概況を適切に示し, そこにみられる規則性のようなものがみられるとすれば, それを, 学習者に対して適度に示すことは, 必ずしも容易ではないようである。

たとえば, 大学で使用される学術文献を対象とする読解テキストの中の一例を次に挙げてみよう。そこには学術語彙を増強する一環として, 英語の否定接辞を学ばせるくだりがある(適宜, 訳語を付す):

The most common English negative prefix for adjectives is *un-* (e.g. unhappy, unkind, unpopular), which means *not*. Other negative prefixes include *il-*, *ir-*, *im-*, *in-*, and *non-*. Some of these negative prefixes are used predictably, while others have no rules and have to be individually learned.

[最も広く用いられる英語形容詞の否定接辞は un- であり, not を意味する。否定に係る他の接頭辞には il, ir, im, in, non- がある。このうち予測のできる接頭辞もあるが, 予測できる規則のないものもあり, それは個々に学習が必要である。]

Prefix	Rule	Examples
ir-	before r	irrelevant, irresponsible
il-	before l	illicit, illogical
im-	before p, b, m	imperfect, immoral
in-	all others	incomplete, inexcusable
un-	no rule	uncomfortable, unpredictable
non-	no rule	nonalcoholic, nonsmoking
dis-	no rule	disagreeable, disconnect

(Ishitani & Embury 2007: 14)

テキスト中にあるこの表は, 次のような内容を表している:

否定接辞の ir-; il-; im- は, それぞれ, r; l; p, b, m の音価を語頭にもつ単語の前につき, それ以外の音価を語頭にもつ単語には否定接辞 in- が用いられる。un-; non-; dis- には, 接続上の規則はない。

教室ではこのガイドラインに沿って, 否定接辞がいかに使われるかを20の英単語で学生に考えさせることになる:

1. accurate	6. mature	11. appropriate	16. necessary
2. available	7. regular	12. similar	17. resident
3. capable	8. significant	13. consistent	18. satisfied
4. constitutional	9. stop	14. dependent	19. variable
5. involved	10. licensed	15. legal	20. cooperative

(Ibid.; 但し, 重複を避けるため一部差し替えた.)

言葉はあくまでも長い時間をかけた文化の産物であり、人工的で計算可能な単なる合成物ではないため、語彙体系の規則性を適度に示すことは容易ではない。学生からは、次のような質問が寄せられる：

(1) 教材の語彙問題の中で示された否定接辞 *ir-*; *il-*; *im-* の接続規則に照らして、6番 (*mature*), 7番 (*regular*), 15番 (*legal*) の語彙に対して、*immature*, *irregular*, *illegal* を対立する語彙として問題ないようである (つまり辞書にあるが)。しかしながら、10番 (*licensed*), 17番 (*resident*) の語彙について、表にある規則にあてはめていくと、\**illicensed*, \**irresident* という語彙は不自然のようである (つまり辞書には見当たらない)<sup>1</sup>。当該接辞の運用規則はどうなっているのか。結果的には、*unlicensed*, *non-resident* という形が広く受け入れられているようであるが、どのような考え方でアプローチすればよいのか、また、他の接辞を用いる可能性はないのか。

このような問いに対し、先に紹介した教材を実際に利用する一教員としては、上記の表で、最初に学習者に与える情報としては、まずはちょうどよいのではないと思われる。それは、否定接辞のおよその姿を大まかにつかんだ上で、主体的な学習によって、基本語彙修得が十羽ひとからげに簡単に片づくものでないことを認識し、さらなる問題意識を自らもつ機縁となればよいと考えるからである。

しかし、もう一方で、学術面からは確かに、これまでの知見やコーパスで掴める語彙の使用状況を適宜、教場で簡単に補える程度にまとめておくことも無意味ではないように思われる。それは、こうした質問に遭遇するような折に、学生に対して言葉への洞察や英語を捉える感覚的な導きを与えるきっかけともなると考えるからである。

以下、先の学生からの問いかけを機縁として、現代英語の否定やそれに類する意味に係る接辞の観察対象をもう少し深めつつ膨らませ、主として形態と意味の観点から考察してみよう。

考察対象となる語彙は日常生活上の一般語彙に加え、現代英語の基本的な一般学術語彙を念頭におく。後者については、主として Coxhead (2000) の *Academic Word List* (以下、AWL と略す) を適宜、参照する。また、現代英語の使用状況について適宜、British National Corpus (以下、BNC と略す) を参考とする。一連の言語事象について、形態、機能、意味の観点を念頭におきながら考察する。

否定接辞の種類による語彙の分布を AWL を通して大まかにみると、*un-* と *in-* (*il-*, *im-*, *ir-*; 後述するように *in-* には複数の異形体がある) が大多数を占める (*un-* が最も多い)。既出のもの以外に否定に類するものとしては、*ab-*, *de-*, *mis-*, *under-* 等の接辞をもつ語彙が散見される (*normal* → *abnormal*; *regulate* → *deregulate*; *interpret* → *misinterpret*; *resourced* → *under-resourced*, 等)。また、*anti-* や *counter-* も否定に類するものとしてよいだろうが、本稿では拡張しうる部分は大方、割愛し、先の教室での問いを中心に、以下、覚え書きメモ風に記す。

## 1. *unlicensed* と *non-resident*

### 1-1. *unlicensed* をめぐって

さて、前節の学生からの質問 (1) について簡単に所見を記しておきたい。初めに *licensed* について。つまり *licensed* という形容詞 (この場合、動詞 *license* の過去分詞形とみる) の否定語彙はどう表現されるかという問題である。歴史的事実として、*unlicensed* となるが、本来的には、語彙

<sup>1</sup> 歴史的な過去を含め、現在も認知されていない語彙に\*印を付ける。なお、ある時期に存在していた語彙が、その後に使われなくなる語彙があるが (廃語と呼ぶ)、それには、†印を付す。

の意味の対立や反義関係は、接辞等の形態上の観察にとどまらず、どの意味に関しての関係かを吟味する必要がある。licensed は二つの意味で用いられてきた (OED, licensed と unlicensed の項):

(licensed)

1. 許可が与えられている；(現代では特に、宅地の売買や酒類の販売に係る許可)
2. 裁量が与えられている、特権的な立場にある

他方、unlicensed は、次のように大きく3つの意味で用いられてきた (元来4つあるところ、rare とある語義のひとつは省略する):

(unlicensed)

1. a. (人などについて,) 職業や産業の面で正式な認可が下りていない  
b. 何かを行う上で、権限や正式な許可が与えられていない
2. (書物等について,) 認可なしで出版される。
3. 許可を必要としない

両語の意味の対応では、Unlicensed の語義2に、licensed では明記されていない、書籍等の印刷、出版の關係に特化した意味が示されていることを除けば、通例、次のように結果的には示せる。

○ licensed <認可(免許)を受けた> —> unlicensed <認可(免許)を受けていない>

[(用例は、主として *The Cambridge International Dictionary of English* (1995) [以下、CIDE と略記] と BNC から引用:]

- ・ A *licensed* practical nurse is a nurse in the US who has been trained to do practical nursing (=looking after people who are ill) but who is not allowed to give medicines without permission. [CIDE] (米国の准看護師は、看護の訓練を積んでいるが、医師の許可なしには、薬の投与は認められていない。)
- ・ It says *unlicensed* minicabs are the most dangerous form of public transport. [BNC] (無免許のミニタクシーが最も危険な公共交通機関といわれている。)
- ・ They say there were a lot of unlicensed doctors in the Edo period in Japan. (江戸時代の日本には、やぶ医者が多くいたらしい。)

まず形からみると、licensed は (過去) 分詞形容詞である。それに un- が付き否定の語彙を生んでいる。

Un- はゲルマン系に由来し、「~でない (not) ~の反対 (the opposite of ~)」を意味し、ゲルマン系の語基にも (e.g. unfair, untrue, unwise, 等), ラテン・フランス系の語基 (unassuming, unexpected, unsuccessful, 等) にも付き得る (cf. 長嶋1980: 261)。形態上、形容詞や分詞 (過去分詞, 現在分詞) に付く。

先の20の語例中、licensed と同様に分詞形容詞であるものは involved (表中の5番) と satisfied (18番) である。両者ともに un- を付けて対立語とすることができる (uninvolved: 無関係な, 無関心な; unsatisfied<sup>2</sup>: 満足していない)。

<sup>2</sup> satisfied に別種の否定接辞 dis- を付けて、dissatisfied も可能。この場合、Huddleston&Pullum 2002 によれば、人間が満足していない (i.e. discontented) ことを示すのに対し (e.g. He remained thoroughly dissatisfied with his job.), unsatisfied は、抽象的な事象に対して満足していない、満たされていない (“not satisfied, unfulfilled”) の意味として特徴的に用いとされる (e.g. Their need for guidance remained unsatisfied.). dis- はラテン・フランス系の起源をもち、同じ系統の基体との相性がよく、上記の分詞形容詞の他、形容詞 (e.g. disagreeable, disloyal, dishonest, dissimilar, 等), 動詞 (e.g. disconnect, disobey, 等), 抽象名詞 (e.g. disorder, disunity, 等) と結ぶ得る。AWL で dis- の付き得る語彙をみると、un-, in-, non- に比して少ない。

冒頭に紹介した語例中には過去分詞形容詞は3例しかないが(5, 10, 18番), AWLをざっとみると, 通常 un- を付して用いられる形容詞の多くが過去分詞形容詞であることに気づく:

unaccompanied <連れのない, 無伴奏の>  
 unaffected <影響を受けない>  
 unaided <助けの無い, 救助を受けない>  
 unanticipated <予期しない, 意外な>  
 unassessed <査定を受けていない>  
 unassigned <割り当てられ(てい)ない>  
 unassisted <援助(助け)を借りない>  
 unattached <関係のない, 所属していない>  
 unbiased <先入観のない, 公平な>  
 uncharted <海図に印のない, 未知の>  
 unconfined <縛られていない, 制限のない>  
 unconstrained <強制によらない, のびのびした>  
 uncontextualized <文脈を考慮しない>  
 unconvinced <納得しない>  
 uncultured <教養のない, 文化的でない>  
 undiminished <減じていない, 衰えていない>  
 unfounded <根拠のない, 未確立の>  
 uninjured <傷を受けていない>  
 unjustified <不当な, 筋の通らない>  
 unmonitored <監視されていない>  
 unparalleled <無比の, 無類の>  
 unprecedented <先例のない>  
 unprincipled <道徳律をもたない, 不正直な>  
 unpublished <未発表(未公刊)の>  
 unregulated <規制されていない>,  
 unresolved <未解決の, 決心がつかない>,  
 unrestricted <制限されていない>,  
 unscheduled <表に未掲載の, 不定期の>,  
 unstructured <組織立てられていない, 不統一な>, 等である。

このように un- は動詞の過去分詞形容詞との相性がよいことが実感できる。OEDでも, この傾向は, 歴史的にみて古英語, 中期英語の時代を経て, その後も連綿と続き, 接頭辞 un- の中で, 最も広くみられる用例であるとされる(un-, prefix 1の項8)。

Un- が付き得る語基は, 分詞形容詞に限らず, 広く形容詞に及ぶ。否定接辞 un- を用いて当該形容詞の否定・反義を示せるものを, 0節の表中の語例と問題として提示された20の語彙ならびに AWL の中からみてみよう。分詞形容詞に限らず, 広く多岐に用いられることが確認できる。たとえば,

alterable <変えられる> ——> unalterable <変更し得ない> cf. inalterable  
 available <役に立つ, 入手可能な> ——> unavailable <入手(利用)できない, 手があいていない>

comfortable <快適な> ——> uncomfortable <不安を与える, 心地よくない>  
 constitutional <生まれつきの, 憲法に関係する> ——> unconstitutional <違憲の>  
 cooperative <協力的な> ——> uncooperative <非協力的な>  
 involved <螺旋状に巻いた, 込み入った> ——> uninvolved <無関係 (無関心) な>  
 necessary <必要な> ——> unnecessary <不必要な>  
 predictable <予言 (予測, 予想) できる> ——> unpredictable <予言できない>  
 responsive <応答する> ——> unresponsive <応答しない, 鈍感な> cf. irresponsive

歴史的にみると, license に関係する (派生) 形容詞として, 過去分詞形容詞 (licensed) の他に licentious (形容詞) と <sup>†</sup>licentiate (動詞 licentiate の過去分詞からの形容詞) という語彙が存在していたことが分かる (OED によると, 前者は16世紀前半から, 後者は15世紀後半から; 後者は現代では廃語とされている)。この二つの形容詞に対応する対立語として, 現代では廃語とされているが, <sup>†</sup>illicentious (形容詞: done without license, unlawful, illegal の意) と <sup>†</sup>illicentiate (動詞 licentiate の過去分詞に il- を付した語: unlicensed の意) が記録されている。前者の使用例はおよそ1659年, 後者は1622年とあることから, 17世紀半ばころまで用いられていたと推察される。つまり, 否定接辞 in- の異形態である il- が動詞 <sup>†</sup>licentiate の過去分詞形容詞 (現代語でいえば licensed) とともに用いられた形跡があったことがわかる (現代語として, \*illicensed とは言わないが)。

il- の元の形にあたる in- は, ラテン語に由来し, 意味は un- や dis- と同じとみてよい。ラテン・フランス系の語基に多く付くとされるが (学問的色彩のある学識語を含む insane, illogical, irrelevant, improper, 等の形容詞や inattention, 等の名詞), ラテン系のつながりのない語基とも自由に用いられるとされる (cf. OED: in- prefix<sup>3</sup>の項)。in- は, un- ほどの造語力をもたないという (cf. Huddleston&Pullum2002:1688)。接合の規則性を求めるには厄介な一面である。

license やその変化形 licensed は, ラテン語, フランス語に起源をもつため, 同じ起源をもつ in- との結び付きは, 語源上の相性も面で, 問題はない。しかしながら, その結束力は, <sup>†</sup>illicentious や <sup>†</sup>illicentiate までであって, それ以上に, in- 同様に, 付く相手の歴史的な起源を必ずしも選び分けることをしないが, 分詞形容詞との相性がよい un- が, il- (すなわち, in- の異形体) に優って結びついた, と解釈できるのではなかろうか。

他方, licensed が, 別の否定接辞 non- と結びつき, non-licensed という語彙として用いられることがある (cf. OED は未収録)。たとえば,

- ・ Some of the poorest public houses have been closed and some are used now for *non-licensed* purposes. [BNC] ((経営が思わしくないパブのなかには, 店をたたんだところもあれば, [酒類以外で] 取り扱い免許が必要ないものを商いする目的で, 店を利用しているところもある。))
- ・ Teachers, licensed or *non-licensed*, who are willing to teach in a particular precinct, ...[BNC] (教師は, 免許の有無にかかわらず, 特定の地区で教える志があれば, ...)
- ・ ... there needs to be a distinction between licensed and *non-licensed* people in architecture. [BNC] (... 建築分野で, 免許のある者とない者を区別することは必要だ。)

このように, unlicensed に加え, non-licensed が確認されるが, non- の振る舞いについて, ここで触れておこう。non- は, ラテン語に由来し, アングロ・フランス語 (Anglo-French) を経由しているため, ゲルマン系とラテン・フランス系の語基に付き得る。造語力は, un- ほどではないにせよ, かなり高いと考えられる。~でない (not) の意を表し, 分詞形, 形容詞に限ら

ず (e.g. non-legal, non-scientific, 等), 名詞や (e.g. non-smoker, non-fiction, 等) 複合語にも (e.g. non-profit-making, non-English-speaking, 等) 付き得る。OED は、特に、non- の形容詞と分詞形容詞への添加について、科学分野での造語が顕著である旨を指摘している (non- の項)。

上記の3つの用例についてみると、non-licensed に共通するのは、免許の必要性や免許の有無に対して、いわば客観的な面から伝える機能があると考えられる。欠如もしくは消極的否定といってもよい。一方、unlicensed の場合は、本節の冒頭で挙げた用例からも気づくように (unlicensed minicabs や unlicensed doctors という用例)、本来取得しておくべき免許の資格がないことに対して、主観的な感情をさしはさめる余地があるように思われる。non- は、「語基の形容詞について、その度合いを問題にするのではなく、ある性質を持つか持たないかの二分法の一方の極を示す」(長嶋1980: 262) としてよい。このような観察は、追ってとりあげる non-resident の考察にも活かしよう。

### 1.2 non-resident をめぐって

次に学生からの質問(1)の後半、resident について考えてみよう。ここですでに、unlicensed の考察時の要領で、形容詞の resident に対する non-resident が、どのような意味の面で対応関係をなすのかをみておこう (OED, resident と non-resident の項)。

(resident)

1. 居住している [14c ~]
2. 住込みの、駐在している [15c ~]
3. (性質や力が) ある。内在している [16c ~]
4. (事物が) ある [16c ~]

(non-resident)

1. (聖職者が) 居てしかるべき場所に不在である [14c ~]
2. 住居や特定の場所に不在である。[16c ~]
3. (米国) (土地に関して) 土地の所有者がその場所には共住していない [19c ~]

resident については、1, 2の意味が3, 4の意味へ、歴史的に拡張していることから、視点が人間から、不可視の力や事物へも向けられ、3, 4の意味が、抽象化して生まれていることがわかる。resident に生じた意味の拡張部分(語義の3と4)は、non-resident の意味に対応してはいないが、両語の2の意味を中心とする対応関係を確認できる。次のように示して問題はなからう。

○ resident <居住している> —> non-resident <居住していない>

- ・ She is *resident* abroad. [CIDE] (彼女は海外に居住している。)
- ・ Too many decaying country houses belong to *non-resident* owners who are reluctant to sell. [BNC] (田舎に見られる夥しい数の廃屋は、売却をためらい、自らはそこに居住しない所有者のものである。)

歴史的にみると、resident は、ラテン語に起源もつ14世紀後半生まれの語彙であるが、16世紀には non-resident と <sup>t</sup>unresident が共存していた(後者の初出は1574年)。後者は現在、廃語となっている(OED)。否定接辞 in- と resident が結びつき(その場合、基体の子音と同化し、綴りも in- から ir- となって) \*irresident が存在していたという形跡はみられない。

上記2例の意味を考えると、先の *licensed* が免許の有無に関心が向けられていたのと同様に、*resident* の意味は、一定の場所に居住しているか、していないか、が焦点となっている。二項対立的に意味が二分され、意味の中間段階が問題とならない、もしくは問題とする必要のないときは、*non-* が好んで用いられる傾向がある。*resident* の場合、その意味の性質から *non-* が選ばれていると考えられる。

*non-* が付き得る他の事例を AWL から数例、見てみよう。

- *alcoholic* ——> *non(-)alcoholic* <アルコールを含まない>
- ・ Three patients underwent successful liver transplantation and two others died of hepatic failure while awaiting transplant surgery. The survival rates for alcoholic and *non-alcoholic* patients were identical. [BNC] (三人の患者の肝臓移植は成功したが、もう二人の患者は移植を待つ間に肝不全で亡くなった。飲酒の患者とそうでない患者の生存率は、同じであった。)
- *constitutional* ——> *non(-)constitutional* <憲法に関係しない> cf. *unconstitutional*
- ・ *Non-constitutional* motions can be proposed by any member of the Society. [BNC] (その協会の会員はだれでも、非憲法的な動議であれば出せる。)
- *legal* ——> *non(-)legal* <法律に関係しない> cf. *illegal*
- ・ These rules are partly legal and partly non-legal. [BNC] (これらの規則には、法律が要求するものと法律とは関係のないものが混ざっている。)
- *regular* ——> *non(-)regular* <非正規の、定期的な> cf. *irregular*
- ・ The government passed the *non-regular* workers protection law [BNC; 一部改変] (政府は非正規労働者保護法を通過させた。)
- *relevant* ——> *non(-)relevant* <関連のない> cf. *irrelevant*
- ・ This would prevent the police from taking other *non-relevant* files relating to other clients, which has been known to happen. [BNC] (これがあれば、警察が当該の人物と関係のない書類を扱うことを防げるだろう—そうした警察の行為はこれまでよくあったことであるが。)
- *significant* ——> *non(-)significant* <有意でない> cf. *insignificant*
- ・ Statistically nonsignificant differences do not matter. (統計上、有意ではない差は、重要ではない。)
- *stop* ——> *non(-)stop* <止むこと (止まること) のない、直行の>
- ・ The night raids were almost *non-stop*<sup>3</sup>. [BNC] (夜間の空襲は、ほぼ止むことはなかった。)
- *traditional* ——> *non(-)traditional* <伝統に従わない> cf. *untraditional*
- ・ What is the implication to a company using such a non-traditional distribution channel as this for the sale of its goods? [BNC] (会社にとって、このような、従来にない流通経路を使って商品の販売を行う意味は何ですか。)

*un-* (*in-*) と *non-* が同じ語基についてできた、これらの語彙の意味上の差異については、当該の意味に係る段階性の観点から、議論は可能であるが、ここでは、これ以上触れない<sup>4</sup>。

<sup>3</sup> この *stop* は、名詞か動詞と考えられるが、*non-* を付すことで叙述形容詞として機能している。*non-* が名詞や動詞から形容詞 (通例、限定用法) を作る類例として、例えば、*Non-slip* floor surfaces must be provided in tubs and showers./*Non-standard* protocol services should be totally avoided./He loves wines, cocktails, American beers and *non-stop* music, 等。

<sup>4</sup> Huddleston & Pullum 2002: 1688-1689) には、*non-* と *un-* の対照的な語彙化について、次のような例示がある：*non-repeatable* (“cannot be repeated”) vs. *unrepeatable* (“too foul to repeat”), *non-productive* (“not productive”) vs. *unproductive* (“fruitless”), *non-professional* (“not professional”) vs. *unprofessional* (“unbecoming for a member of the profession”), *non-American* (“unlike characteristically American”) vs. *un-American* (“hostile to America”) cf. 本稿の註13

## 2. 否定接辞の形態と意味をめぐって

## 2.1 否定接辞 in- とその異形体としての il-, im-, ir-

前節での unlicensed に関連した記述のなかで、一部、否定接辞 in- に触れたが、その点について確認しておこう。

否定接辞 in- は、語基の後続音による同化の作用を受けて音声が変わり、それが形態面にも影響を与え、il-, im-, ir- という形態に代わることがある。0 節に例示した英語の否定接辞の概略表にある〔rule〕欄に音連結の特徴が表示されているが、この点については、否定接辞 in- の異形として、il-, im-, ir- が存在することを指摘しておかねばならない。いわゆる逆行同化 (regressive assimilation) の現象に起因する綴り字の変容である<sup>5</sup>。便宜上、先の20の語彙についてみれば以下のような観察ができる。

balance <秤, 調和> ——> imbalance <平均を失った状態, アンバランス>	
	cf. balanced → unbalanced (動詞の過去分詞形容詞) cf. unbalance (v.)
legal <法律(上)の> ——> illegal <不法な>	
licit <合法の> ——> illicit <不法の, 法で禁じた>	
logical <論理学(上)の, 論理的な> ——> illogical <非論理的な>	
	cf. non-logical
mature <熟した, 熟慮した> ——> immature <未熟な>	
moral <道徳的な, 精神的な> ——> immoral <不道徳な, 淫らな>	
	cf. unmoral; non-moral; amoral
perfect <欠点のない, 完全な> ——> imperfect <不完全な, 欠陥のある>	
precise <正確な, 明確な> ——> imprecise <不正確な, 曖昧な>	
regular <規則的な, 規則に拘束されている> ——> irregular <不規則な, 不法の>	
relevant <関連のある> ——> irrelevant <無関係の, 的外れの>	
responsible <答えられる, 責任のある> ——> irresponsible <責任を負わない>	

irrelevant の場合、relevant の語頭 r 音が in- の n 音に影響を与え、n 音が r 音へ同化する。licit の語頭 l 音が in- の n 音に影響を与え、n 音が l 音へ同化する。imperfect の場合、perfect の語頭 p 音が in- の n 音に影響を与え、n 音が p 音へ同化する。imbalance の場合、balance の語頭 b 音が in- の n 音に影響を与え、n 音が b 音へ同化する。immoral の場合、moral の語頭 m 音が in- の n 音に影響を与え、n 音が m 音へ同化する。すなわち、in- は、唇音 (p, b, m) の前で im-, l の前で il-, r の前で ir- となるとみてよい。

音の同化現象の変化を生じさせる口腔内の舌の移動の中心が歯茎部分 (いわば、同化現象に係る起点の位置) であり、そこに調音の場所 (あるいは慣習的な表現では「調音点」) を有するのが in- というわけである。つまり、ここでいう同化とは、調音する場所が同化する現象と考えられる。n 音の調音点である歯茎が、p, b, m 音の調音点である両唇と、l, r 音の調音点である歯茎・硬口蓋の中心的位置にある、という発音上の経済性にも留意しておきたい。図示すれば、次のようになろう (丸括弧内は、調音の場所からみた音の性質):

[p 音, b 音, m 音 (両唇音) < ----- n 音 (歯茎音 ----- > l 音や r 音 (歯茎・硬口蓋音)]

<sup>5</sup> 逆行同化とは、たとえば、「ある音が後続の音の調音を先取りして、それに近い調音に代わる現象」(竹林1996: 347) といえる。英語の音連結に伴う同化現象は、音読の際にも必要な知識である。

なお、語基の先頭の音価の影響をうけずに<sup>6</sup>、否定接辞 in- をそのままの形で（基体の子音と同化させることなく）用いて〈当該形容詞の否定・反義を示せるものは、0節の表中の語例と、問題として提示された20の語彙についてみれば、次の通りである。

accessible <近づきやすい, 入手しやすい> —>	inaccessible <到達しがたい, 得難い>	cf. †unaccessible
accurate <正確な> —>	inaccurate (不正確な, ずさんな)	cf. †unaccurate
appropriate <固有の, 適切な> —>	inappropriate <不適當な, ふさわしくない>	
capable <敏感な, 有能な> —>	incapable <能力のない, 無力な>	cf. †incapable
complete <完成した> —>	incomplete <不完全な, 未完成な>	cf. †incomplete
consistent <首尾一貫した, 堅実な> —>	inconsistent <両立しない, 矛盾する>	cf. †inconsistent
dependent <依存している> —>	independent <独立の, 自立した>	
excusable <許される, 無理の無い> —>	inexcusable <言い訳の立たない, 許せない>	cf. †inexcusable
secure <心配のない, 安全な> —>	insecure <不確かな, 不安>	cf. †insecure
significant <意味(意義)のある> —>	insignificant <取るに足らない, 無意味な>	cf. †insignificant
variable <気まぐれな, 変わりやすい> —>	invariable <不変の, 一定した>	

## 2.2 否定接辞 in- と un-

ここで注意すべきは、これらの否定接辞 in- と un- を用いた形容詞の中には、歴史的な過程で、否定接辞の in- と un- が併用されていて、現在では in- にほぼ収束しているものもあれば (e.g. inconsistent, insignificant, 等), un- にほぼ収束しているものもある点である (e.g. unavailable, 等)。なお、現在、in- と un- 両形の否定接辞を用いて、形容詞と名詞の派生関係を示す語彙もある<sup>7</sup>。

たとえば、OED によれば、2.1節の最後で示した11語の形容詞のうち8語の形容詞には、否定接辞 in- が付く形と un- が付く形が併用されていた時代があった<sup>8</sup>：

†unaccessible (16末~18c), †unaccurate (17~18c), †uncapable (16末~18c),  
 †uncomplete (14c末~18c), †unconsistent (17c), †unexcusable (14末~17c),  
 †unsecure (17~18c), †unsignificant (17c)

un- の付いたこれらの形は、OED によれば、現代では廃語となっている<sup>9</sup>。

<sup>6</sup> 音声学的にみれば、in- の n 音は、接続する次の音価との兼ね合いで何種かに変わる。形態面に変化を生じさせない un- の場合にも音声学的には同様である。竹林1996:348を参照されたい。

<sup>7</sup> 例えば (Huddlesotn & Pullum 2002:1688; 一例追加) の指摘では、unable-inability, uncivil-incivility, unequal-inequality, unjust-injustice, unstable-instability, unbalanced-imbalance, 等。これらの例では、形容詞に in- を用い、名詞形に in- (と in- の異形態) を付している。

<sup>8</sup> OED に基づき歴史的にみて、かつてあったが現在は使われないとみられる語彙には † を付す。なお、存在していたことを示す使用用例の年号は割愛する。

<sup>9</sup> 一方、コーパス (BNC) で調べると、OED で廃語とされているこれらの語彙は、BNC 全体から見れば僅少ではあるが皆無ではない (特に上記13のうち uncomplete, unsecure, incapable は他の形容詞と較べ僅少の中でも多い方かと思われる)。

このあたりの事情について、OEDの記述を引用しておこう (un-, prefix<sup>1</sup>の5b)：

From the 14<sup>th</sup> century onwards there was considerable variation, when the base was of Latin origin, between the Latin *in-*, *im-*, etc., and the native *un-*. Early examples of forms with *un-*, which either then or a little later have variants with *in-*, *im-*, are *unability*, *uncorrigible*, *uncorrupt*, *uncurable*, *undign*, *undiscreet*, *unmeasurable*, *unmovable*, *unnumerable*, *unperfect*, *unperfection*, *unportable*, *unpossible*. Similar formations continued to multiply during the following centuries, so that a large proportion of the words beginning with *il-*, *im-*, *in-*, *ir-* had corresponding forms in *un-*, as *unadequate*, *unadvertence*, *unarticulate*, *unartificial*, *unattentive*, *unaudible*, *unauspicious*, *un capable*, etc. The culminating period of the double forms lies in the 17<sup>th</sup> century; since that time the tendency has been to differentiate, and to discard one or other of the doublets, the forms with *in-*, etc., being very commonly preferred when the whole word has a distinctively Latin character, as *inadequate*, *inadvertence*, *inarticulate*, etc. Even with such forms there is no absolute rule, and doublets are still numerous, as *in-* or *un-advisable*, *in-* or *un-alienable*, etc. (See *in*-<sup>2</sup>.)

[要旨：14世紀以降、ラテン語に由来する語基の場合、ラテン語由来の否定接辞 *in-* とゲルマン語由来の *un-* との間で多くの変動があった。その全盛期は17世紀で、その後は両形の語彙を区別し、二重語のいずれか一方を捨てる傾向が生まれている。否定接辞 *in-* のつく語彙は、語基のラテン語由来の性質が顕著であれば大変好まれる：*inadequate*, *inadvertence*, *inarticulate*, 等。しかしそのような語彙であっても、絶対的な規則はなく、二重語のふるまいは未だに多数ある：*inadvisable* / *unadvisable*, *inalienable* / *unalienable*, 等]

また、先に否定接辞 *in-* をそのままの形で用いて当該形容詞の否定・反義を示せるものとして紹介した語彙のうち、*appropriate* と *stable* は、*in-* の付く形と並行して、*un-* の付く形も OED と BNC で確認できる (*unappropriate*, *unstable*)<sup>10</sup>。

唯一、*dependent* は、*in-* の付いた *independent* は、おなじみであるが、それと並行して、\**undependent* は、これまで生じていない。

一方、*variable* について、*invariable* が安定を見せ、\**unvariable* は OED でも BNC でも見つけられないが、*unvaried* (動詞 *vary* の過去分詞に *un-* を付加した分詞形容詞) や *unvarying* (*vary* の現在分詞に *un-* を付加した分詞形容詞) は、辞書とコーパスの両方で認知されている。たとえば、

- ・ Their routines are unvaried. [BNC] (彼らの日課には変化がない。)
- ・ Only in very unusual situations do we speak with fixed, unvarying pitch. [BNC] (極めて特異な状況下に限って、人は音声の高さを一定にして変えずに話すものだ。)

また、*-in* (その異形体も含む) は、*un-* と異なり、意味の特殊化がみられる (荒木・安井

<sup>10</sup> この場合の *un-* を付した形容詞形は、教育、学習上は、理解用の語彙として受け止め、積極的に学習者が発信用を使用することは差し控えたほうが良い。しかし、一定の規範的な語彙リストは学習、教育上、必要かつ望まれるが、ことばのあるがままの姿を歴史的に観察できる視点も大切である。ことばは歴史と共に変化していくものであるという認識はおろそかにはできないであろう。

1992 : 1105)<sup>11</sup>。たとえば、

famous <有名な> ——> infamous <悪名の高い>  
 finite <有限の> ——> infinite <無限の；莫大な，非常な>  
 firm <堅固な> ——> infirm <弱い；優柔不断な，根拠薄弱な>  
 pious <敬虔な> ——> impious <不敬虔な；不遜な>

in- が付くと、元の語基の意味に対して、その反意にプラスアルファの意味が生じている（たとえば、軽蔑の感情や心理的な強調感の表れ）。本稿の最後部でも触れる moral に im- (in- の異形体のひとつ) を付して生まれた immoral は、その類義語として bad, wicked, dissolute, dissipated, profligate が挙げられている (*Random House Unabridged Dictionary*, 2nd ed; 以下, RHD と略す.)。

### 2.3 否定接辞 a- をめぐって

さらには、別種の否定接辞 a- が否定語彙の表現の幅を広げることがある。この接辞は、ギリシャ語に由来し、「～が欠けている」(lacking in; lack of) の意味をもち、形容詞や名詞に付く。多くはギリシャ・ラテン系の借用語や新古典的な語基 (borrowed or neo-classical words) に付く (e.g. amorphous 無定形の, anarchy 無政府状態, anomalous 変則の, asexual 無性の, asymmetry 非対称, atheist 無神論者, atrophyed 委縮症 (委縮した), 等)。科学分野の語彙にも多く見られる (e.g. abranchiate エラの無い (無鰓 [むたい] 類), anaesthesia 麻酔, anorexia 食欲不振, aphasia 失語症, 等)。

この否定接辞 a- は、BNC でみると、冒頭に紹介した否定接辞の運用目安の表中の14語彙に、問題として挙げられた 20 の語彙を合わせて計 34 語彙のうち (これらはすべて AWL にも含まれる)、否定接辞 a- を付した語彙の用例が、21の語基に見られる (およそ6割)。広く社会に受け入れられている言語事象とは言えないが、否定接辞 a- を汎用する傾向が、最近の英語使用に係る意識の底流の一部に流れているようにも感じられる。たとえば、この後にみる moral という語彙の場合、否定やそれに類する意味を複数の接辞で表せるが、否定接辞 a- を付した amoral という形が、他の immoral, unmoral, non-moral と較べれば、歴史的には最も新しい、最近の語彙といえる。

### 2.4 否定接辞のヴァリエーション - moral の場合 -

最後に、moral を例に、本稿で取り上げた否定とそれに類する接辞による語彙のヴァリエーションを観察しておこう。moral は、次のように、4種の接辞を用いて、否定やそれに類する意味を産出する (語義は OED と RHD に基づく；各語義を / で区切る；用例を適宜付す) が、文脈や場面、状況に応じて意味の棲み分けが、厳格になりすぎない程度に、ほどよく行われていることが分かる。

<sup>11</sup> Quirk et al. (1985 : 1540) にも同種の指摘がある。その類例のひとつに、movable に対する unmovable と immovable がある。この場合、例えば、The rock weighed over a ton and was completely immovable. vs. She has stated her immovable opposition to abortion. の2文において (用例は CIDE より)、前者の immovable は、unmovable (動かせない) と同義とみてよいが、後者 immovable は、確固たる意見という非物理的な動かし難さを表し、単なる語基の否定ではおさまりきれない意味を示している。こうした事象は、一方で、表現の対象が物体から人やその意見へ向けられることから、比喩的転喻 (metaphorical extension) の面からの考察も可能かもしれない。

[moral —> immoral / unmoral / non-moral / amoral]

○immoral: 1. [17c ~] not consistent with, or not conforming to, moral law or requirement; opposed to or violating morality; morally evil or impure; unprincipled, vicious, dissolute. (Of persons, things, actions, etc.)

‡2. [18c] not having a moral nature or character; non-moral. Obsolete. rare. /

[RHD では OED のような二つの語義の区別は示していない] violating moral principles; not conforming to the patterns of conduct usually accepted or established as consistent with principles of personal and social ethics. cf. licentious, lascivious.

cf. It's an immoral tax because the poor will pay relatively more. [CIDE] (それは人の道に反する税金だ, 富んでいない者が今よりも多くのお金を収めねばならないとすれば。)

○unmoral: [Common from c. 1860.] non-moral; not influenced by, or connected with moral considerations. / neither moral nor immoral; amoral; non-moral

cf. Nature is unmoral. [RHD] (自然は道德とは無縁だ。)

○non-moral: [19c ~] not moral; having no moral standard; wanting in moral instinct or sense / having no relation to morality; neither moral nor immoral

cf. It was a completely non-moral problem and involved only judgments as to efficacy. [RHD] (それは道德性とは完全に無縁の問題であり, 効き目に関する諸判断だけを宿している問題である。)

○amoral: [19c後半 ~] not within the sphere of moral sense; not to be characterized as either good or bad; non-moral. / not involving questions of right or wrong; without moral quality; neither moral nor immoral. cf. having no moral standards, restraints, or principles; unaware of or indifferent to questions of right or wrong: a completely amoral person. [RHD] (最後の用例: 善悪に全く無頓着な人)

cf. There is no such thing in economics as *amoral*; either actions are immoral or moral. [BNC] (経済活動やその状態には, 道德上の諸原理を欠いたものはない; 経済に係る行動は, 道德に反するか適うかのいずれかであるからだ。)

OED には, un- の項の語義 7.a. の中で, 別の否定接辞 in- との棲み分けに触れながら, moral と immoral を引き合いに出して述べる, 次のようなコメントがある<sup>12</sup>。

*Un-* is freely prefixed to adjectives of all kinds, except where a Latin form in *in-*, etc., has

<sup>12</sup> このコメント中にある“positive implication”(積極的(に評価にも関わるような意味)と“simple negative or neutral”(単純, 中立的な意味)という表現は, Larsen-Freeman & Celce-Murcia 2016: 185) が紹介する, “pejoratively evaluative” vs. “descriptive/objective” という対照と内容的に重なると思われる。そこでは, 諸種ある否定接辞の運用上の指標と対照例を紹介している: in- (and its allomorphs), dis-, and (less so) un- tend to be pejoratively evaluation of the stems to which they attach, while non- and a- prefixes are more descriptive or objective. (ibid.); [pejoratively evaluative” と “descriptive/objective の順で対照例]: irrational-nonrational, disbeliever-nonbeliever, dysfunctional-nonfunctional, unprofessional-nonprofessional, unprofitable-nonprofit, untheoretical-atheoretical, immoral-amoral. これらは, Lawrence Horn, *A natural History of Negation* (University of Chicago Press, 1989) の知見を基としているが, 本稿ではその点について, 十分な吟味はできていない。

definitely established itself in common use. Both forms, however, co-exist, and in some cases a new formation with *un-* has been introduced when that with *in-* has acquired a connotation which it is desirable to avoid. The form with *un-* is then purely negative, while the other may have almost a positive sense, e.g. *unmoral* in contrast with *immoral*. (When the form with *un-* has similarly acquired a positive implication, the simple negative or neutral sense is expressed by the use of *non-* or *not-*. (OED: *un-*, prefix<sup>1</sup>の項; 語義7.a.)

[要旨：*unmoral*と*immoral*が共存する場合，前者は，単純に否定，後者は，積極的（に評価にも関わるよう）な意味としての否定である。やがて，*unmoral*が，*immoral*同様に，積極的な意味を帯びてくると，単純，中立的な意味での否定は，*non-*や*not-*によって表される。]

*immoral*に関するOEDの記述によれば，17世紀に確認された*immoral*は，当初，評価や，場合によっては嘲笑を含むような，（積極的）意味を持っていた。同語は，18世紀になって，一時，（中立的で）単純な否定の意味を有する時期を迎えた。しかし，それは18世紀のうちに使われなくなり，19世紀には，その単純否定の意味を引きつぐべく*unmoral*が生まれている。それとほぼ同時に，*non-moral*も19世紀に確認され，19世紀後半には*amoral*も認められるようになる。このことから，現在，*unmoral*は，*immoral*と同様に，積極的な意味で用いられるケースが少なからずある，とみてよいのであろう<sup>13</sup>。それは，すでに中立的意味の*non-moral*や*amoral*があることから，意味，用法上の棲み分けは可能ということとも符号する。

### 3. おわりに

ここであらためて，冒頭で問題として挙げた*licensed*と*resident*の否定に係る関連語彙の形態について確認しながら，若干の余滴を残しておこう。

まず*licensed*について。<sup>†</sup>*illicensed*が現在も過去も存在せず，*unlicensed*が現在用いられていることは，語頭の音価のみによって，あらかじめ否定接辞が決まっているわけではないことを物語っている。学習者はこの点に注意が必要である。*il-*，*ir-*，*im-*といった否定の意味に係る形態は，*in-*と当該形容詞の語頭の音価との同化作用によって生じている点を踏まえ，*licensed*は，その歴史的経緯の中で，*in-*との結びつきよりも*un-*との結びつきを求めたといえる。接辞や語の基体の歴史的起源をみると*in-*（*il-*，*im-*，*ir-*）はラテン語由来，*un-*はそもそものゲルマン系の英語由来の接辞である（OED）。一方，*license*は，動詞にしる名詞にしる，フランス語に起因する（OED）。であれば，*in-*と*licensed*の結びつきは妨げるものがないように思われるが，実際はそうではなかった。出所に係る歴史的由来による結合性よりも，*un-*の有する過去分詞志向と*un-*の有する造語力が，*in-*の歴史的由来性に優ったと解釈できるのではなかろうか。なお，*licensed*は，動詞*license*からの過去分詞形容詞として，自由を許された，免許を受けた，等の意味をもつが，歴史的にラテン・フランス系の語基であっても，学識語の性質が比較的薄いと感じられる向きも少なからずあるように思われる。

*resident*に係る否定の語彙については，歴史的には*non-resident*の出現（16c）のあと，一時期<sup>†</sup>*unresident*が生まれたが（16c；初出例 1574年），<sup>†</sup>*unresident*は17世紀以降，廃語となり，

<sup>13</sup> 実際，本文中に例示したRHDの*unmoral*の2種の並列された語義と用例（Nature is *unmoral*）やコーパスからの用例（e.g. Here the anarchist was simply *unmoral* moralist. [BNCより] 無政府主義者は単にモラルのない道徳家であった。）が確認できる。また，英和辞書では，たとえば，*unmoral*の語義として「道徳に関係がない」の横に「道徳感のない」という，人の評価に係る積極的意味を付しているものもある（研究社大英和辞典，第六版，2002年）。

non-resident に集約した。意味の面からみると、ある（特定の）場所に人がいるか、いないか、を問題とするため、通常、その間の意味、すなわち、いる、と、いない、の間については注意が向けられることはほとんどない。このことから resident の否定の接辞として、意味の中間段階のない、二項対立的な意味構造に適する non- が求められることは頷ける。

いずれにせよ、こうした接辞の選択に係る語彙の成り立ちのような問題は、機械的に効率よく片づけてしまうことが容易でない。人間が長い時間をかけながら、文化として育んできた語彙だからであろう。学習上、教育上の教材に係る規範性を、どの程度考慮して学生に提示するかは、意外と難しい。一筋縄では片づけられない側面が、英語学習、英語教育にも潜在している点を、今後も、頭の隅に置いておきたい。

### 参考文献

- 荒木一雄・安井稔 (1992) 『現代英文法辞典』 東京：三省堂.
- Coxhead, A. (2000). *Academic Word List*. Retrieved from <http://www.victoria.ac.nz/lals/resources/academicwordlist/>
- Huddleston, R. D. and Pullum, G. K. (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Huntley, H. and K. Shidara. (2008) *Introduction to Academic Reading: Acquiring the Essential Academic Vocabulary*. Cengage-Learning.
- Larsen-Freeman, D. and M. Celce-Murcia. (2016<sup>3</sup>) *The Grammar Book: Form, Meaning, and Use for English Language Teachers*. National Geographic Learning & Heinle Cengage Learning.
- 竹林滋 (1996) 『英語音声学』 東京：研究社.
- 長嶋善郎 (1980) 「語構成の比較」『音声と形態』(日英語比較講座 I) 岡廣哲彌編, pp.235-285. 東京：大修館.
- 竝木崇康 (1985) 『語構成』(新英文法選書 2) 東京：大修館.
- Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G. and Svartvik, J. (1972) *A Grammar of Contemporary English*. London: Longman.
- (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.

コーパス：

BNC: British National Corpus. (小学館ネットコーパス)

辞書：

CIDE: *Cambridge International Dictionary of English*, (Cambridge University Press, 1995)

OED: *The Oxford English Dictionary*, 2<sup>nd</sup> ed. (Oxford University Press, 1991)

RHD: *Random House Unabridged Dictionary*, 2<sup>nd</sup> ed. (Random House, 1993)

Abstract

Semantic Notes on Negative Prefixes in Word Formation in English:  
The use of *unlicensed* and *non-resident*

TAKAHASHI Gen-ichiro

Keywords: word formation, negative prefixes, “*a-*, *dis-*, *in-*, *non-*, *un-*”, historical nature, English adjectives

This paper is mainly concerned with English negative prefixes such as “*a-*, *dis-*, *in-*, *non-*, *un-*” and their behavior in word-formation. The variety of prefixes may appear to be similar because different prefixes can come from different languages such as Latin and Greek. *In-* and its allomorphs (different forms of the same morpheme) *il-/im-/ir-*, for instance, come from Latin (e.g. *illogical*, *immoral*, *irrational*). *Non-* stems from old French and Latin, *a-* from Greek (e.g. *asymmetry*, *atypical*), *dis-* from Latin, and *un-* from a native English prefix and the most productive one in English today (e.g. *unhappy*, *unaccustomed*). Adjectives, nouns, adverbs, and verbs can take some of these prefixes to make them negative, but in this paper, adjectives and those produced from deverbal participial forms are focused, among other things. A student in the class has made a question: why *licensed* takes *un-* as its negative form rather than *il-* (i.e. an allomorph of *in-*): *unlicensed* vs. \**illicensed*. Similarly, an explanation of why we can say “*non-resident* owners of the houses” rather than “\**unresident* or \**irresident* owners of the houses” is provided. The attempt is to challenge these two questions in terms of historical nature related to the negative prefixes and their relative productivity inherent in them. Unfortunately, determining which prefixes to use with which stem is not always predictable. Moreover, the rules on which negative prefix to use when more than one is possible are not absolute. However, we can consider and guess the subtle behavior of prefixes and their meanings in terms of their historical backgrounds in nature and semantic contrast in context.